

第 82 回国民スポーツ大会・
第 27 回全国障害者スポーツ大会
長野県準備委員会

第 1 回式典・会場専門委員会



第82回国民スポーツ大会・
第27回全国障害者スポーツ大会
マスコットキャラクター
長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

令和 5 年 1 月 12 日（木）

長野県スポーツ会館 2 階会議室・オンライン会議
併用開催

式典・会場専門委員会 委員

(委員は順不同、敬称略)

職名	氏名	所属・役職等
委員長	平野 吉直	国立大学法人信州大学 理事(教学担当)・副学長
副委員長	築山 秀夫	公立大学法人長野県立大学グローバルマネジメント学部 教授
委員	北村 明子	国立大学法人信州大学人文学部 教授
〃	伊東 一雄	公益財団法人長野県スポーツ協会 事務局長
〃	永原 龍一	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会 常務理事兼事務局長
〃	竹中 雅幸	長野県レクリエーション協会 会長
〃	桂本 和弘	長野県小学校長会 幹事長
〃	篠原 謙治	長野県中学校長会 幹事長
〃	石川 裕之	長野県高等学校長会 副会長(中信地区会長)
〃	佐藤 純也	長野県私立中学高等学校協会 理事
〃	浦野 憲一郎	長野県特別支援学校校長会 幹事長
〃	中村 雅夫	長野県合唱連盟 理事長
〃	水野 英明	長野県吹奏楽連盟 事務局長 長野県高等学校文化連盟吹奏楽部会 理事長
〃	込山 善仁	長野県警察音楽隊 楽長
〃	山本 晋司	一般財団法人長野県文化振興事業団 常務理事
〃	関根 保夫	日本放送協会長野放送局 コンテンツセンター長
〃	大島 良司	松本市スポーツ推進課 課長
〃	土屋 秀夫	長野県警察本部警備部警備第二課 首席参事官兼課長
〃	岩下 秀樹	長野県県民文化部文化政策課 課長
〃	藤木 秀明	長野県健康福祉部障がい者支援課 課長
〃	加藤 浩	長野県教育委員会事務局義務教育課 参事兼課長
〃	服部 靖之	長野県教育委員会事務局高校教育課 参事兼課長
〃	酒井 和幸	長野県教育委員会事務局特別支援教育課 課長

計 23名

第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会 長野県準備委員会 第1回式典・会場専門委員会 次第

日時：令和5年1月12日（木）10:00～11:30

場所：長野県スポーツ会館 2階会議室

※オンライン会議併用

1 開会

2 委員長あいさつ

3 委員紹介

4 報告事項

- (1) 国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会の概要について
- (2) 第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会開催に向けたスケジュールについて
- (3) 式典・会場専門委員会の概要について
- (4) 開・閉会式の会場について
- (5) 第77回国民体育大会・第22回全国障害者スポーツ大会（栃木県）開・閉会式の開催状況について

5 審議事項

- (1) 式典基本方針（案）について

6 閉会

報告事項

国民スポーツ大会の概要

1 主催

(公財) 日本スポーツ協会 文部科学省 開催地都道府県

2 目的

大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとするを目的とする。

3 開催時期及び開催期間

- (1) 冬季大会：1月～2月、5日間以内
- (2) 本大会：9月～10月、11日間以内

4 実施方式

- (1) 冬季大会と本大会の競技得点の合計を競う都道府県対抗方式で開催される。
- (2) 上記両大会で実施した全正式競技の男女総合成績1位に“天皇杯”、女子総合成績1位に“皇后杯”が授与される。

5 実施競技（競技数）

区分		第74回(2019年) ～ 第77回(2022年)	第78回(2024年) ～ 第81回(2027年)	第82回(2028年) ～ 第85回(2031年)	
本大会	正式競技	毎年実施	36	36	36
		隔年実施	2	2	2
		開催地選択	休止	休止	休止
		計	38	38	38
	公開競技	5	7	9	
	デモンストレーションスポーツ	開催都道府県が希望する競技			
冬季大会	正式競技	1	1	1	
	デモンストレーションスポーツ	開催都道府県が希望する競技			

※ 第82回～85回大会の実施競技は別紙のとおり（実施競技は4年ごとに見直し）
隔年実施競技（馬術、なぎなた）については、本県大会ではなぎなたを実施

6 大会規模等（出典：日体協発行「Sports Japan」による。）

- ・国体参加選手約2万人
 - ・観客動員約60万～70万人
 - ・大会開催経費約100億～150億円
 - ・経済効果約500億～600億円
- [第77回(2022年)国体への長野県選手団派遣人数：冬季大会(栃木県・秋田県)203人、本大会(栃木県)525人]

7 その他

- (1) 戦後の混乱期中、スポーツを通して国民に希望と勇気を与えようと、昭和21年(1946年)、京都を中心とした京阪神地区で第1回大会が開催された。
- (2) 各都道府県持ち回り方式で毎年開催され、昭和36(1961)年からは、国のスポーツ振興法に定める重要行事の一つとして行われている。(※平成23年(2011年)からは、スポーツ基本法第26条に定められている。)

なお、本県では、昭和53年(1978年)に第33回大会を「やまびこ国体」として開催し、昭和63年(1988年)の第43回京都大会から、二巡目開催となる。

第 82 回大会（2028 年）～第 85 回大会（2031 年）における実施競技について

1 本大会

(1) 正式競技 : 計 38 競技

ア 毎年実施競技 : 計 36 競技

陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車競技、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、クレール射撃、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

イ 隔年実施競技 : 計 2 競技 (※ 下記種目のうち、1 種目を実施)

馬術、なぎなた (本県)

※ 「正式競技」の実施区分のうち「開催地選択競技」については、休止とする。

(2) 公開競技 : 計 9 競技

綱引、ゲートボール、武術太極拳、パワーリフティング、グラウンド・ゴルフ、バウンドテニス、エアロビック、スポーツチャンバラ、ダンススポーツ

(3) デモンストレーションスポーツ

上記「(1)正式競技」及び「(2)公開競技」に該当しない競技団体の競技。

なお、日スポ協加盟（準加盟）団体以外の競技についても、「国民体育大会デモンストレーションスポーツ実施基準」に基づき、開催都道府県競技団体が開催都道府県と調整の上で実施することができる。

例：ウォーキング、ソフトバレーボール、スポーツ吹矢 等

(4) 特別競技 : 計 1 競技

高等学校野球

2 冬季大会

(1) 正式競技

ア 毎年実施競技 : 計 3 競技

スキー、スケート、アイスホッケー

(2) デモンストレーションスポーツ

全国障害者スポーツ大会の概要

1 主催

(公財)日本パラスポーツ協会、文部科学省、開催地都道府県・市町村、その他関係団体

2 目的

障がいのある選手が、障がい者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的とする。

3 開催時期及び開催期間

国民スポーツ大会本大会の直後を原則として、3日間（例年、概ね10月中）

4 参加資格

毎年4月1日現在で13歳以上の身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者

5 実施競技（予定）

区分		競技数	競技名 (身：身体障がい者、知：知的障がい者、精：精神障がい者)
正式競技	個人競技	7	・陸上競技（身・知） ・アーチェリー（身） ・卓球（身・知・精） [サウンドテーブルテニス（身）を含む] ・ボウリング（知） ・水泳（身・知） ・フライングディスク（身・知） ・ボッチャ（身）
	団体競技	7	・バスケットボール（知） ・ソフトボール（知） ・サッカー（知） ・バレーボール（身・知・精） ・車いすバスケットボール（身） ・グランドソフトボール（身） ・フットソフトボール（知）
オープン競技		広く障がい者の間にスポーツを普及する観点から有効と認められるものについて、主催者間で協議のうえ実施	

※ 正式競技については、全国障害者スポーツ大会委員会で協議し、開催年の5年前までに日本パラスポーツ協会が決定。

6 大会規模等

- ・選手 約3,500人
 - ・役員 約2,000人
 - ・観覧者 約43,000人
 - ・大会開催経費 約20億円
- [第22回（2022年）とちぎ大会への長野県選手団派遣人数：83人（選手44人、役員39人）]

7 その他

- (1) 全国障害者スポーツ大会は、昭和40年（1965年）から行われてきた「全国身体障害者スポーツ大会」と、平成4年（1992年）から行われてきた「全国知的障害者スポーツ大会」を統合した大会として、平成13年（2001年）から国民体育大会終了後に、同じ開催地で行われている。
- (2) 本県では、昭和53年（1978年）「やまびこ国体」の開催後に、「第14回全国身体障害者スポーツ大会（やまびこ大会）」を開催して以来の開催となる。

全国障害者スポーツ大会実施競技等について

1 競技実施区分

競技ごとに、①性別区分、②年齢区分(個人競技のみ)、③障がい区分(障がい種別、程度)が定められている。

○年齢区分 身体障がい者 1部(39歳以下)、2部(40歳以上)

知的障がい者 少年(19歳以下)、青年(20歳～35歳)、壮年(36歳以上)

精神障がい者 年齢区分なし

2 障がい種別実施競技及び主管団体

区分	障がい区分 競技名	肢体 不自由	視覚 障がい	聴覚 障がい	内部 障がい	知的 障がい	精神 障がい	県主管団体 (先催県の例)
個人	陸上競技	○	○	○	○※	○	×	陸上競技協会
	水泳	○	○	○	×	○	×	水泳連盟
	アーチェリー	○	×	○	○※	×	×	アーチェリー協会
	卓球	○	○	○	×	○	○	卓球連盟
	フライングディスク	○	○	○	○※	○	×	フライング ディスク協会
	ボウリング	×	×	×	×	○	×	ボウリング連盟
	ボッチャ	○ 重度	×	×	×	×	×	ボッチャ協会
団体	バスケットボール	×	×	×	×	○	×	バスケット ボール協会
	車いすバスケットボール	○	×	×	×	×	×	
	ソフトボール	×	×	×	×	○	×	ソフトボール 協会
	グランドソフトボール	×	○	×	×	×	×	
	フットソフトボール	×	×	×	×	○	×	
	バレーボール	×	×	○	×	○	○	バレーボール 協会
	サッカー	×	×	×	×	○	×	サッカー協会

※ 内部障がい：ぼうこう又は直腸機能障害

3 実施種目

競技	種目
陸上	・競走 50m、100m、200m、400m、800m、1500m、スラローム、4×100mリレー ・跳躍 走高跳、立幅跳、走幅跳 ・投てき 砲丸投、ソフトボール投、ジャベリックスロー、ビーンバッグ投
水泳	・自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ(各 25m、50m) ・4×50mフリーリレー、4×50mメドレーリレー
アーチェリー	・リカーブ (50m・30m、30mダブル) ・コンパウンド(50m・30m、30mダブル)
卓球	・卓球 ・STT(サウンドテーブルテニス)
フライングディスク	・アキュラシー (5m、7m) ・ディスタンス (座位、立位)

第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会開催に向けたスケジュール

年度		開催手続等	推進体制等
事前対応		H29.3 2月県議会で「両大会の招致に関する決議」が全会一致で可決	
H29年度 (2017年度)	11年前	<p>開催の内々定(7月) (開催申請書提出順序の了解)</p>	<p>開催要望書の提出(5月)</p> <p>準備委員会の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 常任委員会の設置 ・ 総務企画専門委員会の設置
H30年度 (2018年度)	10年前	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「総合開・閉会式会場」の決定 ・ 「国スポ競技会場地市町村」の内定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報・県民運動専門委員会の設置
R元年度 (2019年度)	9年前	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「全障スポ競技会場地市町村」の内定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報推進戦略部会の設置 ・ 県民運動推進戦略部会の設置
R2年度 (2020年度)	8年前	<p>開催年の変更(10月) (R10年開催の開催申請書提出県として決定)</p>	
R3年度 (2021年度)	7年前		
R4年度 (2022年度)	6年前	<p>国スポ「正式・公開・特別競技」の決定 (日スポ協) ※ 4年ごと見直し</p> <p>中央競技団体の正規視察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊・衛生専門委員会の設置 ・ 輸送・交通専門委員会の設置 ・ 式典・会場専門委員会の設置
R5年度 (2023年度)	5年前	<p>国スポ「公開競技」の決定</p> <p>開催の内定</p> <p>全障スポ「実施競技」の決定 (日本パラスポーツ協会)</p>	<p>国スポ「公開競技」申請</p> <p>開催申請書の提出</p>
R6年度 (2024年度)	4年前		
R7年度 (2025年度)	3年前	<p>国スポ「デモンストレーションスポーツ」の決定</p> <p>(文科省・日スポ協) 会場地総合視察</p> <p>開催の決定</p>	<p>国スポ「デモンストレーションスポーツ」申請</p> <p>実行委員会の設置</p>
R8年度 (2026年度)	2年前		
R9年度 (2027年度)	1年前	<p>国スポリハーサル(プレ)大会</p>	
		第82回国民スポーツ大会(冬季大会) 開催	
R10年度 (2028年度)		<p>全障スポリハーサル(プレ)大会</p>	
		第82回国民スポーツ大会(本大会)・第27回全国障害者スポーツ大会 開催	

数
次
に
競
技
に
関
連
し
た
会
場
地
市
町
村
を
選
定

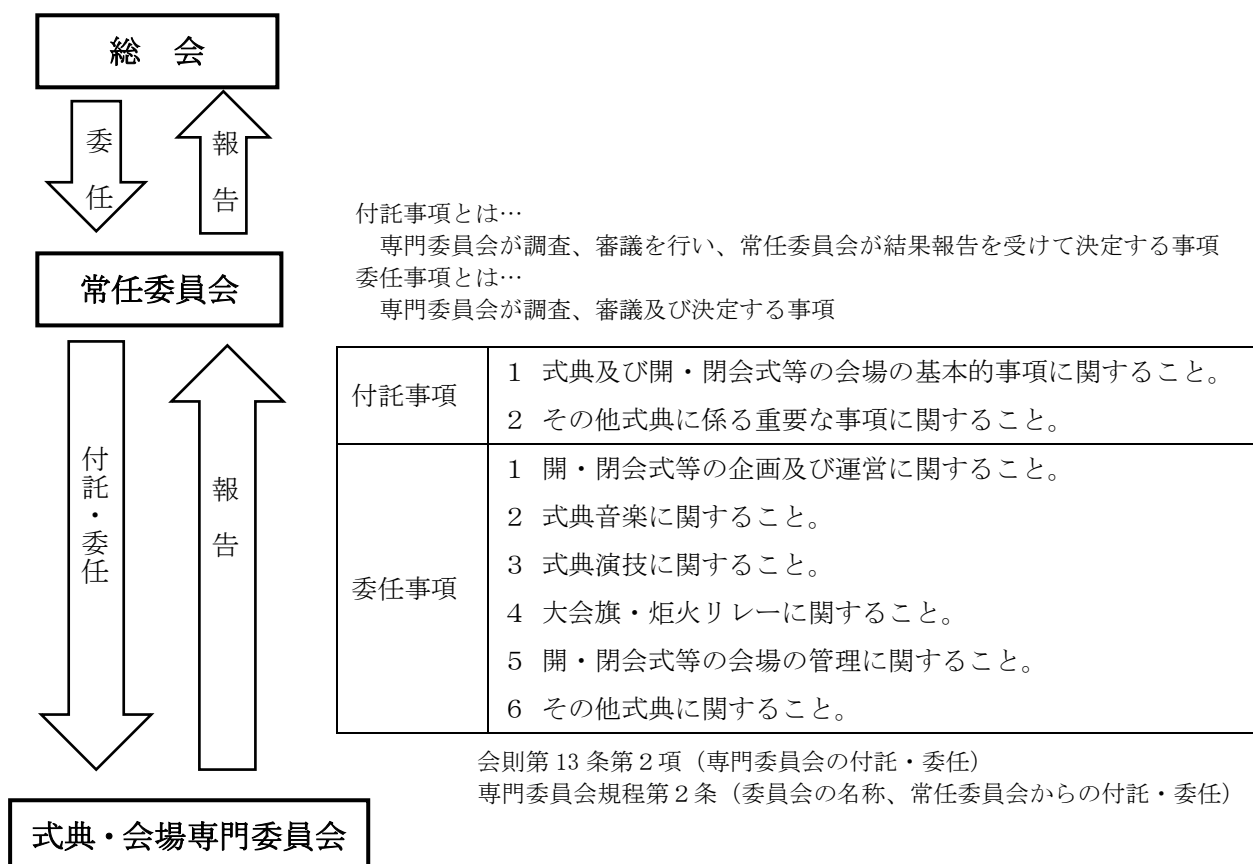
式典・会場専門委員会の概要

1 目的

第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会の開・閉会式等の企画・運営、式典音楽、式典演技、大会旗・炬火イベント等に関する方策等を専門的見地から検討、審議等を行うため、式典・会場専門委員会を設置する。

2 式典・会場専門委員会への付託事項、委任事項及びその根拠

第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会長野県準備委員会専門委員会規程（令和 4 年 5 月 31 日第 6 回総会で決定）



3 主な審議事項について（予定）

(1) 式典運営に関すること

式典本部体制、役員・選手団入退場計画、大会旗・炬火イベント方針、オープニングプログラム・エンディングプログラム計画 等

(2) 式典音楽に関すること

式典音楽隊編成方針、場面ごとの使用曲、作・編曲者、録音会・練習会計画 等

(3) 式典演技に関すること

式典演技（国スポ）・歓迎演技（全障スポ）のコンセプト、演技構成、振付、伴奏曲 等

(4) 開・閉会式等の会場管理に関すること

会場整備計画、ゾーニング・動線計画、仮施設整備計画、会場装飾・飾花計画 等

式典・会場専門委員会の主な審議事項の今後のスケジュール(案)

※R5.1時点で先催県の事例を基にした案であり、今後変更となる場合あり

年度	開催手続	全体	式典業務			会場業務	
			式典運営 (大会旗・炬火イベント、 OP・EP・歓ア*含む)	式典音楽	式典演技	開・閉会式等	
2022年 (R4)	6年前	中央競技団体 正規視察	専門委員会設置 第1回専門委員会 ・式典基本方針	式典基本方針			
2023年 (R5)	5年前	開催申請 内定	第2回専門委員会 ・部会設置 各部会 部会長、委員選定	先催県の事例研究 式典運営部会設置 開・閉会式等 基本的な考え方検討	式典音楽部会設置 式典音楽 基本的な考え方検討	式典演技部会設置 式典演技 基本的な考え方検討	
2024年 (R6)	4年前		専門委員会・ 各部会 ⋮	各競技会表彰式 基本方針検討 炬火イベント 基本方針検討 OP・EP・歓ア 基本的な考え方検討	式典音楽隊 編成基準検討 場面ごとの使用曲 の検討	活用素材、 演技展開の検討	
2025年 (R7)	3年前	会場地 総合視察 (文科省・ JSPO) 開催・会期 決定	専門委員会・ 各部会 ⋮	式典基本計画			会場等整備の基本的 な考え方、ゾーニング、 動線、整備工程等の基 本的事項の検討 会場等整備 基本計画
2026年 (R8)	2年前		専門委員会・ 各部会 ⋮ ※年度当初に式典実施 計画作成業務受託者を 選定し、受託者が検討 した企画やアイデアを 各部会に諮り磨き上げ るプロセスを予定 ⋮	役員・選手団入退場計画 (参集範囲の決定) OP(主催者フロ、公募フロ、 映像フロ、EP(主催者フ ロ)、歓アの構成検討 OP等の出演者等の 選定方針検討 OP等の出演団体の 募集・選定	作・編曲者の検討、 楽譜の制作等 演奏団体の選定、 練習計画の策定 試奏会	出演団体の人数や規模 の検討等 演技伴奏曲の検討 演技振付・ 演技台本の検討 会場等整備 基本設計	
2027年 (R9)	1年前	国スポ リハーサル 大会	専門委員会・ 各部会 ⋮ ※年度当初に式典実施 要項作成業務受託者を 選定し、受託者が検討 した企画やアイデアを 各部会に諮り磨き上げ るプロセスを予定 ⋮	炬火用具制作 式典アナウンサー、 フィールド司会者、 プラーカー等検討 炬火走者決定	練習会 使用曲録音会	演技出演団体選定、 練習計画策定 用具・服飾等の 検討・制作等 練習会 会場等整備 実施設計	
第82回国民スポーツ大会(冬季大会)							
2028年 (R10)		全障スポ リハーサル 大会	式典本部設置	研修会・練習会 (式典アナ、プラーカー等) 炬火イベント 式典総合練習会(国スポ本大会1か月前) 総合リハーサル(国スポ・全障スポの各1週間前)	練習会	練習会 会場設営	
第82回国民スポーツ大会(本大会)・第27回全国障害者スポーツ大会							

* OP: オープニングプログラム(総合開・閉会式、開・閉会式)
EP: エンディングプログラム(総合開会式、開・閉会式)
歓ア: 歓迎アトラクション(冬季大会開始式)

第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会 開・閉会式会場

1 開・閉会式の会場

- (1) 会場名 長野県松本平広域公園陸上競技場（松本市大字今井）



※既存の陸上競技場を除却した上で、新たな陸上競技場の整備を計画

- (2) 建物概要（新陸上競技場）

構造	RC 造 一部 S 造
階数	地上 3 階、地下 1 階／地上 1 階（スポーツ練習場）
施設仕様	走路、跳躍競技施設、投擲競技施設、障害物競走施設、インフィールド、雨天走路、屋内練習場、フィールド照明、大型映像装置
収容人数	15,050 席（メインスタンド 7,050、バックスタンド 2,000、南サイドスタンド 3,100、南アルプススタンド 1,300、北芝生席 1,500、北ベンチスタンド 100）
駐車台数	616 台（既存駐車場含む）

※松本平広域公園陸上競技場整備事業基本設計から抜粋

- (3) 開・閉会式会場の選定理由

別添「第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会「総合開・閉会式会場」選定」のとおり

2 長野県松本平広域公園陸上競技場の整備事業のスケジュール（令和 3 年 4 月時点）

R2～R3 年度	基本設計
R3～R4 年度	実施設計
R4 年度	既存陸上競技場の解体工事、補助陸上競技場の改修工事
R5 年度～	新陸上競技場の建設工事
R7 年度末	新陸上競技場完成
R8 年度	供用開始

第82回国民体育大会・第27回全国障害者スポーツ大会 「総合開・閉会式会場」選定

- 総合開・閉会式会場として重要な要素となる会場・周辺のスペース及び収容力については、「松本平広域公園陸上競技場」と「長野オリンピックスタジアム」の両施設は、いずれの項目においても必要となる要件を満たしている。
- 本県の「総合開・閉会式会場選定基本方針」を踏まえるとともに、運営上の観点から、総務企画専門委員会委員の下記のような意見を総合的に判断した結果、2027年の第82回国民体育大会・第27回全国障害者スポーツ大会における総合開・閉会式会場は、**松本平広域公園の陸上競技場**とする。

記

【陸上競技場での実施・県有施設の活用】

- 国体及び全国障害者スポーツ大会の総合開・閉会式は、入場行進から整列までの一連の利便性等の運営面を考慮し、陸上競技場で行うことが先催県の状況からも一般的である。
また、総合閉会式への参加者確保の観点からも、最終日まで競技が実施される陸上競技場を会場とすることが適当である。
併せて、総合開・閉会式の運営は県が行うことに鑑み、県有施設である「松本平広域公園陸上競技場」はふさわしい施設だと考える。

【全国障害者スポーツ大会・アスリートファーストからの視点】

- 国体に引き続き開催される全国障害者スポーツ大会は、閉会式においては全選手・監督及び役員を含め約5,000名が参加する。各競技会場からの移動、また参加者が多い陸上競技の競技日程等を考慮すると、県のほぼ中央に位置する陸上競技場で開催することが理想的であると考ええる。
さらに、全国障害者スポーツ大会の開・閉会式会場は、「総合開・閉会式会場選定基本方針」により、国体と同じ会場で行うことを原則としており、経費や運営面などからも、国体と同じ会場で行うことがふさわしいと考える。

【レガシーの尊重】

- 昭和53年(1978年)の「やまびこ国体」において陸上競技会場となった「松本平広域公園」は、国体における貴重なレガシーであり、その競技場は、その後の陸上競技の発展に大きく寄与したことから、再びこの場所にスポットライトを当て、本県の更なるスポーツ振興へと繋げていきたい。

第 77 回国民体育大会・第 22 回全国障害者スポーツ大会（栃木県） 開・閉会式開催状況

1 会場名 カンセキスタジアムとちぎ（栃木県宇都宮市）



〈炬火トーチ〉

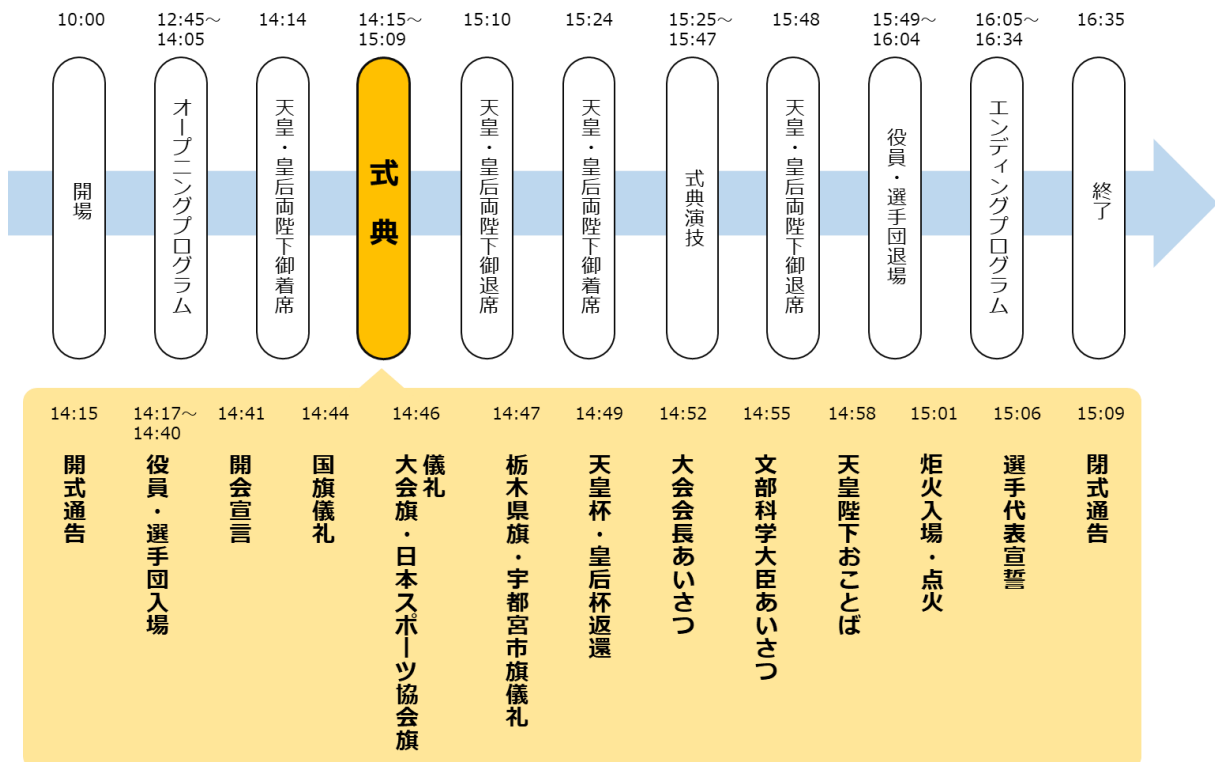


〈ミニ炬火台〉

2 期日等

国民体育大会	総合開会式：令和 4 年 10 月 1 日（土） 17,862 名参加（速報値）
	総合閉会式：令和 4 年 10 月 11 日（火） 11,230 名参加（同上）
全国障害者スポーツ大会	開会式：令和 4 年 10 月 29 日（土） 13,818 名参加
	閉会式：令和 4 年 10 月 31 日（月） 14,297 名参加

3 国民体育大会 総合開会式の次第



審議事項

第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会 式典基本方針（案）

第 82 回国民スポーツ大会（以下「国スポ」という。）及び第 27 回全国障害者スポーツ大会（以下「全障スポ」という。）の式典は、国民体育大会開催基準要項（以下「基準要項」という。）、基準要項細則及び全国障害者スポーツ大会開催基準要綱並びに第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会開催基本方針を踏まえ、「行こう。それぞれの頂へ。」のスローガンのもと、「信州やまなみ国スポ・全障スポ」にふさわしい式典とする。

1 基本理念

- （1）式典に関わるすべての人が、障がいのあるなしに関わらず自らが想い描く頂（いただき）を目指し、様々な場面で光り輝くことで、全国の参加者が夢と感動を共有できる式典とする。
- （2）簡素で効率的な運営を基本としながら、ゼロカーボン社会への貢献とエンターテインメントの創出を追求し、創意工夫を凝らした式典とする。
- （3）来県者を温かいおもてなしの心で迎え、美しい自然や滋味豊かな食、悠久の歴史と文化など長野県の魅力を全国に発信する式典とする。

2 式典の構成

式典は、国スポ・全障スポ（以下「両大会」という。）の開・閉会式、両大会の各競技会表彰式及び大会旗・炬火イベントで構成する。

- （1）両大会の開・閉会式
国スポの総合開・閉会式は、基準要項第 20 項に規定する式典及び集団演技並びに役員・選手団入退場で構成する。
全障スポの開・閉会式は、国スポに準じた構成とする。
- （2）両大会の各競技会表彰式
国スポの各競技会表彰式は、基準要項細則第 9 項に規定する式典で構成する。
全障スポの各競技会表彰式は、国スポに準じた構成とする。
- （3）大会旗・炬火イベント
大会旗・炬火イベントは、開催に向けた気運を高める行事及び両大会の開・閉会式で構成する。

3 式典の企画・運営

- （1）両大会の開・閉会式
両大会の開・閉会式は、第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会長野県準備（実行）委員会（以下「県準備（実行）委員会」という。）が企画し、第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会長野県実施本部（仮称）（以下「県実施本部」という。）が運営に当たる。

(2) 両大会の各競技会表彰式

国スポの各競技会表彰式は、県準備（実行）委員会が別に定める要項に基づき、会場
地市町村準備（実行）委員会が関係競技団体と協議の上、企画・運営に当たる。

全障スポの各競技会表彰式は、県準備（実行）委員会が会場地市町村準備（実行）委員
会及び競技運営主管団体と協議の上、企画し、会場地市町村準備（実行）委員会及び競
技運営主管団体が運営にあたる。

(3) 大会旗・炬火イベント

大会旗・炬火イベントについては、県準備（実行）委員会が別に定める要項に基づく
ものとする。

式典基本方針 関係諸規定

国民体育大会開催基準要項

20 大会の式典

【本大会】

- (1) 大会の式典を行う場合は、冬季大会を含め回数を同じくする大会の総合開・閉会式として、開催県実行委員会が選定した競技会場地で行う。ただし、本大会を複数の都道府県において開催する場合は、別に協議する。
- (2) 式典の所要時間は、原則として 60 分以内とする。
- (3) 式典は、できるだけ簡素なものとして、次の項目を必ず式典中に取り入れるものとする。ただし、その他の項目については、開催県実行委員会において企画の上、日本スポーツ協会と協議して定める。

総合開会式	開会宣言 国旗掲揚 大会旗・日本スポーツ協会旗・実施競技団体旗掲揚 開催県旗・参加都道府県旗・会場地旗掲揚 天皇杯・皇后杯返還 大会会長あいさつ 文部科学大臣あいさつ 天皇陛下お言葉 炬火点火 選手代表宣誓
-------	--

総合閉会式	成績発表 表彰状授与 天皇杯・皇后杯授与 大会会長あいさつ スポーツ庁長官あいさつ 開催県旗・参加都道府県旗・会場地旗降納 大会旗・日本スポーツ協会旗・実施競技団体旗降納 国旗降納 炬火納火 国スポ旗引継 次期開催県旗掲揚 閉会宣言
-------	---

- (4) 総合開・閉会式時に集団演技を実施することができる。
- (5) 競技会終了後の表彰式は細則第 9 項により実施することができる。

【冬季大会】

冬季大会の各競技会においては、開始式並び表彰式を実施することができる。ただし、実施する場合はできるだけ簡素なものとし、内容については、開催県実行委員会において企画の上、日本スポーツ協会と協議して定める。

国民体育大会開催基準要項細則

9 本則第 20 項第 5 号（各競技会表彰式の要領）

各競技の表彰式は、できるだけ簡素なものとし、概ね次のとおりとする。

- ・ 成績発表
- ・ 表彰状授与
- ・ 大会会長トロフィー授与
- ・ 競技会会長閉会のあいさつ
- ・ 会場地代表歓送のことば
- ・ 国旗降納
- ・ 大会旗、実施競技団体旗、会場地市町村旗降納

全国障害者スポーツ大会開催基準要綱

16. 式典

開会式及び閉会式は、できるだけ簡素なものとする。